

## 12 京丹後市久美浜町太刀宮文書等調査

山田洋一

### 1. 調査の経緯

京丹後市久美浜町太刀宮文書は、同町の神谷神社（太刀宮）が所蔵する文書群で、久美浜代官所と領地の村々の仲介をした郡中代（陣屋元村の久美浜村の庄屋が兼務）等が作成・収受したものである。郡中代を勤めていた家から、大正期に寄贈されたもので、目録が京都府文化財保護課より刊行（1994年）されている。

2020年度から、学術研究助成基金（2020年度 基盤研究(C)）「公儀触伝達にみる徳川領国と国持外様領国の両領国体制の存在と構造—幕藩体制構造研究」（研究代表：山田洋一、JSPS 科研費 JP20K01245）の採択により、研究対象地域の一つである丹後地域の基本史料とするため、同市文化財保護課の協力をいただいて、同神社にあったその他の資料とあわせて借用し、調査、撮影を行っているものである。調査参加者は、山田洋一（特任講師）、東昇（教員、研究分担者）、原田宗周（3回生）である。

### 2. 文書調査の概要

2020年6月5日現地で事前調査を行い、太刀宮文書5箱、その他に3箱の資料を確認した。調査の参考とするためその他の3箱も借用し調査することになった。8月5日に8箱を文化情報学実習室へ移動し、以後、5箱中の文書1点毎に、刊行された目録と突き合わせて確認し、新番号を付与し、順次撮影を行っている。その他の文書については内容の確認のため目録を作成している。

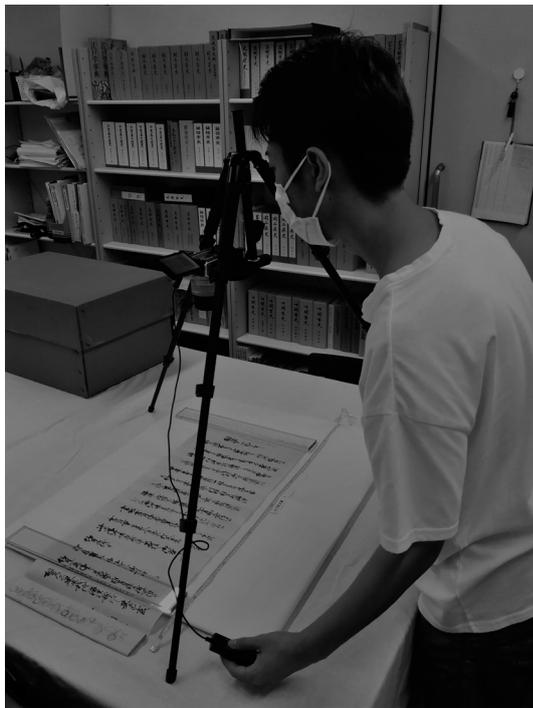


写真1 調査の様子

太刀宮文書5箱は宝永5年（1708）～明治42年（1909）にわたる約1000点、欠年はあるが安永7年（1778）～明治9年（1876）にわたる公儀（幕府）触等が記載される御用留等が含まれている。その他の資料3箱は約1000点（推定）で、調査（目録作成）途中である。今後、御用留全点の内容調査、一部は翻刻などを行い、記載されている触（公儀〈幕府〉触、代官所からの触など）の分析を進めていくとともに、代官所領の構造も検討していく予定である。